

東京女子高等師範學校  
日本幼稚園協會

# 幼稚園の教育

主 幹  
倉 橋 惣 三

四月號

東京女子高等師範學校  
附屬幼稚園保姆兼教諭

坂内みつ子先生著

定價金壹圓八拾錢  
送料十三錢

# 子供の遊ばせ方

四六版美本 一高評第五版

子遊

供ぜ

をる

ことは中々難しいが又愉快なものである。

幼児教育の理論と實際に精通した著者の、子供に對する遊ばせ方の研究書であります。學校でも家庭でも備ふべき良書として御勧めします。

次目

子供を遊ばせるといふ意義  
子供を遊ばせるに大切な條件  
子供の好む遊びの種類  
子供の好む玩具の種類  
玩具を選定する標準  
子供を遊ばせる方法

室内遊遊  
お體遊  
個人的遊  
室外遊  
遊び

以下  
數十項

發行所

東京上野公園  
寛永寺坂下

教文書院

電話下谷三〇四七番  
振替東京四六二一番



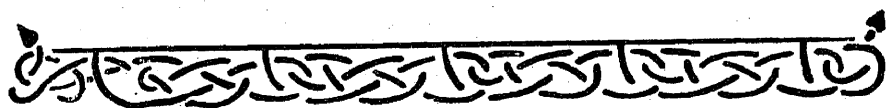
第一號

幼 兒 の 教 育

第二十四卷

目 次

讀者諸君へ……………	主 幹……………二
東京市幼稚園復興問題……………	田 中 三 郎……………三
バラック幼児保護調査……………	……………五
個人對話の教育價值……………	倉 橋 惣 三……………二一
幼稚園細目（綴）……………	馬 場 定 一……………二六
玩具は發見發明の街道……………	藤 五 代 實……………二五
雀の學校（遊戲）……………	土 川 五 郎……………二六
『家なき幼稚園』を訪ふ……………	倉 橋 惣 三……………三〇



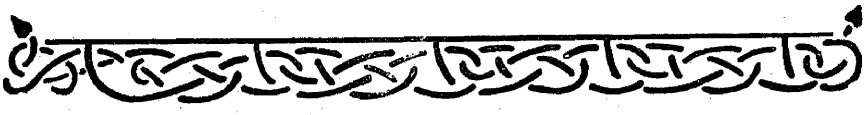


# 日本幼稚園協會編輯幼兒教育

會長 東京女子高等師範學校校長 茨木清次郎  
 主幹 東京女子高等師範學校教授 倉橋惣三

## 贊助員 (五十音順)

東京女子高師教授 乙竹岩雄	東京女子高師教授 太田孝之	東京女子高師教授 大瀬甚太郎	慶應大學教授 唐澤光德	早藏幼稚園長 岸邊福雄	帝國教育會會長 久留島武彦	東京市學務課長兼視學長 澤柳政太郎	東京高師附屬小學校主事 佐々木吉三郎	東京女子高師教授 佐々木秀一	東京女子高師教授 下田次郎	東京女子高師教授 菅原教造	東京女子高師附屬高女主事 富士川游	東京女子高師講師 藤井利譽	大阪市教部育長 福士末之助	帝國教育博物館長 棚橋源太郎	東京女子師範學校校長 高島平三郎	東京女子高師囑托 土川五郎	帝國教育會理事 野口援太郎	文部省社會教育課長 乘杉嘉壽	京都帝大教授 野上俊夫	文部 坂内みつ	文部 弘田七藏	東京女子高師教授 堀村武雄	文部 松本亦太郎	東京帝大教授 榎山榮次	奈良女子高師校長 三田谷啓	奈良女高師附屬幼稚園主事 森川正雄	東京高等學校長 湯原元一	東京帝大教授 吉田熊次
------------------	------------------	-------------------	----------------	----------------	------------------	----------------------	-----------------------	-------------------	------------------	------------------	----------------------	------------------	------------------	-------------------	---------------------	------------------	------------------	-------------------	----------------	------------	------------	------------------	-------------	----------------	------------------	----------------------	-----------------	----------------



復興版

理學博士 山口銳之助先生著

文部省檢定出願中

ローマ字第一讀本

社會の進歩と共にローマ字の必要は、日に月に加はり、子供達のローマ字を求める熱望も漸次高まつて行くやうに思はれます。日本將來の爲め、此の際第二の國民たるべき一般少年少女達に、ローマ字の知識を與へることは極めて大切あることであると存じます。本書は最も完備した初學用ローマ字讀本として兩先生の苦心編纂に成れるもの、現に全國各地の小學校、補習學校で、ローマ字教科書として本年度採用學校數四百八拾六校、冊數貳拾參萬部の多數を印刷致しました。第三學期の兒童補習には是非御使用をお勧めします。

ローマ字第一讀本  
ローマ字第二讀本  
ローマ字第一讀本  
ローマ字第一讀本  
ローマ字習字帖

價 金二十五錢  
價 金二十五錢  
價 金二十五錢  
價 金二十五錢  
價 金二十錢

發行所 敎文書院

東京上野公園寛永寺坂下  
(上根岸八十八)

振替東京四六一番  
電話下谷三〇四七番

東京女子高等師範學校內

日本幼稚園協會

# 幼稚園の教育

主 幹

倉 橋 惣 三



第一號

1924

第二十四卷

## 讀者諸君へ

主幹 倉橋 惣三

本誌は昨年の震災によつて暫く休刊し、漸く其の整理を経て十二月號を發刊しましたが、再び印刷上の支障のため、無斷休刊の已むなきに至り、諸君の愛顧に背くこと實に大なるは勿論、私共に於ても不本意の甚しきものでありました。茲に、更に恢復することを得て續刊するに際し、一層の御同情を乞ふものであります。尚ほ目下の情勢は、以前の通りの紙數と印刷の精巧とを得ること不可能なる事情にあり、當分紙數を減じ、體裁の聊か貧弱なるは、深く寛恕を願ふ次第であります。たゞ、其のゆるす限りの範圍に於て内容に注意し、我國幼兒教育界のために、小さくとも確かなる奉仕をつゞけて行き度いと期して居ります。御援助を願はなければなりません。

# 東京市幼稚園復興問題

東京市視學 田 中 三 郎

東京市に於ける保育事業は非常な改善を要する事は已に震災前に必要であつた。處が昨秋の大震災の結果、公立幼稚園が十、私立幼稚園が三十五焼失した。

從來、幼稚園に對する一般の考へ方は所謂贅澤に屬するといふのであつたから、恚ういふ非常の際には幼稚園なるものが必要ないといふのが、當事者又は父兄の考へであつたから、不幸にして燒き出され離散して居る結果幼稚園の復活するものは極めて少數である。

殊に本所區の如きは、一つしかなかつた幼稚園が中止した状態である。他區でも日本橋區の如きは一二人の保姆を減じ最も熱心なる麹町區に於てさへも、幼兒が震災前ほどまでは集らぬために、これも保姆を減じて居るといふ状態である。従つて、私立幼稚園の大部分は。再興の見込みが覺束ない。又、社會事業たる託兒所の如きも今日では再興覺束ない状態であるから、市に於ても幼兒代護の上から考へなければならぬので、市學務課に於ても積極的に進み、その調査に取りかゝつたのである。

先づバラックに於ける幼兒を調査した處が、四歳以上の子供のある家庭では、三分の一強は希望を有し、三歳以下の子供をもつて居る家庭でも相當に託兒の希望があつた。假に實數をあげると日比谷、芝、芝離宮、明治神宮、上野公園、植物園及各區燒失小學校跡に建てられたるバラックを調査した結果、幼兒一萬人の中に三千二百人が希望して居るのである。



これ以外に散在して居るのは洩れて居るのであるが、震災後、家庭の悲運に遭遇したため、この希望が熱烈であるといふその原因は、職業上の関係がある様である。

幼稚園及託児所の復活は、社會政策上からも必要であるが、東京市としては、これ等幼児を保護し圓滿に成長せしむる上に於て専心になるべきは市としての義務であつて、この事業を各區に負擔せしむる事は困難であるが、又、市としても收入の八割を失つて居る結果、この事業に力を注ぐことは不可能の状態に在るのである。

それで、市學務課は、市の社會局と聯合して、不十分であるが、託児所の幼稚園を若干開設しようといふ活路を見出したのである。

それで、社會局では財源を得るために、内務省の救護局から救濟事業の爲め二十萬圓程の資金を得、その内から八萬圓を託児所に使うといふ事になつた。故に、これを具體的に進める方法として、焼失區域に八千所の託児所を設置し、從事の幼稚園を保護獎勵するため、保姆一人位づゝ派遣して、託児的事業を進めて行かうといふ事になつた。

今一つは従來、區に於て創めた託児所を補助して行くこととして、麹町では二ヶ所をはじめた。それから、財源が許すならば、私立幼稚園も一二ヶ所、當分再興の出来る様に保護を加へたいと考慮して居る。

將來は着々と大都市の幼児保護の見地と父兄が安心して職業に従事し得る様な社會政策上の見地から、幼稚園を十分に旺んにして行く積りであつて、過般の大震災を革新の動機として、益々發展せしめなければならないと思つて居る。

(記者附記、此の田中視學の談話は、本年初めに特に本誌のためにお話下さつたものでしたが、印刷所其他の都合で暫く休刊した爲に甚だ掲載の時機を失したのです。今日としてお話し願へば、更に進んだ一層具體的のお話も伺はれることと思ひますし、その事實も承知して居ますが、市當局としての當時の熱心なる方針に於て變りないのでから、此のお話のまゝ掲ぐることにしました。此點、田中氏及び讀者諸君に一言おことわりして置きます。)

## バラック幼児保護調査

(此の調査は東京市學務課の調査の一部分である。現狀に於て刻々多少の變化はあるが、最も有益なる資料として茲に掲載する。前掲田中市視學の談と照應せられたい。記者)

本市社會局を始め有志者並に各種團體はバラック在住の幼児保護に特段の注意を拂ひ震災後直に託兒所の再開又は新設をなし或は幼稚園或は乳兒産院等の施設を見るに至つたことは誠に幼児のため喜ぶべきことである。

### ○震災後開設幼稚園及託兒所

場所	設立者	組數	保姆數	男	女	計	期間見込	備考			
場	所	設	立	者	組數	保姆數	男	女	計	期間見込	備考
青山外苑	同	愛	會	一	燈	園	三	一	七〇	バラック期間	
同	芝	増	上	寺	増	上	寺	一	二〇	永久	
芝	離	宮	救	世	軍	二	一	三〇	バラック期間		
上野公園	Y	M	C	A	五	一	四〇	同			
同竹の臺	東	本	願	寺	四	一	八〇	本寺院建立後移る			
同池の端	西	本	願	寺	二	一	二〇	同			
日比谷公園	同				四	一	一〇〇	同			

同	Y M C A	三	三〇	バラック期間
築地本願寺	西本願寺	四	六〇	本寺院建立後移る
深川	同	三	三〇	同
本所	同	三	四〇	同
新宿御苑	二葉會	二	三〇	旭町へ復舊す
小石川植物園	交通道德會	三	四〇	
計	一四	四三	六七〇	

## ○震災前設立託兒所の消息

一、焼失せるもの左の十六ヶ所である

名 稱	位 置	備 考
三崎會館託兒所	神田區三崎町	再び開始す
大正婦人會託兒所	芝區新網町	現在新宿御苑内
二葉保育園	四谷區旭町	再び開始す
知德會託兒所	下谷區入谷町	同
直營小學校後援會萬年託兒所	下谷區萬年町	同
同	淺草區玉姬町	同
玉姬託兒所	淺草區玉姬町	同
辛亥救災會辛亥保育所	同	同

同 情 園

淺草區橋場

再び開始す

同情園乳兒託兒所

淺草區橋場町

同

勞働矯風會

本所區林町

同

富士紡績會社託兒所

本所區押上

同

贊 育 會

本所區柳島

同

同 乳 兒 部

同

同

無料宿泊所附屬託兒所

本所區若宮町

同

勞働獎勵會託兒所

深川區猿江裏町

同

大日本紡績株式會社深川工場託兒所

深川區東大工町

同

二、燒失せざる託兒所は左の十三ヶ所である

名 稱

位 置

東京 育 成 園

赤坂區青山南町六ノ一〇五

清蕙幼女保育會

芝區白金三光町香蘭女學校內

孤 女 院

麻布區鳥居坂町東洋英和女學校內

日本聖保綠會

麻布區霞町一ビタリン方

愛 泉 舍

小石川區指ヶ谷町

三 田 幼 稚 園

芝區三田四國町五ノ四

二葉 保 育 園

四谷區元町六六

鮫橋託児所

四谷區谷町一ノ四〇

淺草會館託児所

淺草區地方今戸町一二八

古川橋保育所

麻布區新堀町一一

陸軍糧秣本廠保育所

深川區越中島一

婦人共立育兒會乳兒部

麴町區飯田町二ノ三〇

大日本婦人慈善會女囚攜帶乳兒保育

麻布區廣尾町七九ノ二

## ○バラツク幼兒調査

燒失幼稚園

市立 一〇

幼兒數

一六八三名

私立 三五

幼兒數

二七六三名

計 四五

幼兒數

四四四六名

之等幼兒は燒失區域に屬するので居住及園舎の焼亡と共に離散して其の大多數は來年の春頃でなければ復歸せない模様である。

殘存幼稚園

市立 六

幼兒數

九六二名

私立 三四

幼兒數

二〇八九名

計 四〇

幼兒數

三〇五一

之亦震災後幼兒數の若干は減少したのである。

東京市に於ける過去の幼稚園は比較的有産階級の家庭を對象とせる弊があつた即ち保育料は高きに失し少數一部分の要求

のみに應ずる非難が兎角發生して居つた之は眞實社會的要求の基調に即せなかつたためである大都市に於ての幼児保護の本義に依らないためである此に於て震災を一期劃として吾々は幼稚園の根本的革新を斷行したのである否な斷行すべき時期であると認める。

それにつけても然らば社會的要求は如何なる程度であるかを事實につきて調査する必要がある空論では何等の價值がないので萬難を排し比較的調査の利便を考慮して各大小バラツクの調査を試みたのである殊にバラツク生活は衛生並に風紀上特段に幼児の保護をせねばならぬことは勿論である。

本調査は戸別訪問せねば駄目であると考へ東京市小學校教員及幼稚園保姆に各區の學校跡バラツク、七大バラツクは東京高等師範學校々友會(生徒五十四名出勤)に依頼して綿密に調査して貰つたのである統計は保姆及東京府女子師範學校生徒(二十四名)が調製したのである調査の結果は

幼児數	一〇〇八二名	總數	託兒希望數
內譯	三歲兒以下	四六六二名	九九四名
	四歲より七歲兒	五四二〇名	二二六四名
計		一〇〇八二名	三二五八名

乳兒院、託兒所、幼稚園等の希望數は決して少くはない、前述の數は全市の要求數に比較すれば過半にも達しないものであらう之を以て之を覩れば市民は新しき意味に於ける幼稚園を如何に切望して居るかと云ふことは豫想以外である詳細のことは統計表によりて推斷されるであらう。

## ○一般幼児保護

集團バラックの幼児は不十分ながら各種團體並に有志家の施設經營せる託兒所又は幼稚園に收容保護されるが一般市民の幼児は焼野原に放任されて居る次第である。

全市の幼児數は年々の學齡に達する兒童數平均三萬八千有餘名であるのを基礎として逆に推定すれば約二十萬を下らないであらう否な之よりも遙に多くなければならぬ勿論震災による減少を考慮せねばならぬ四歳以上の幼児のみを數ふるも約七萬を越ゆるであらう吾人の希望からすれば之等を全部完全なる幼稚園に收容保育したいのであるが之は到底設備と經濟が目下の東京市としては許さないことである。

然しせめても焼失區に復歸してをる幼児につき實行したいものである。

調査表によると焼失區域學校跡バラックの總幼兒は五千二十四名であるが焼失區全體としては今日は恐らくは昭和前後は居るであらう何となれば學校兒童は同區域内に既に四萬二千以上復歸して居るのである。

吾等の見地よりすれば焼失區域の多數の學校に幼稚園を附設して幼兒を收容保育し以て震災後の今日の幼兒保護の要求に添ひたいのである。

東京市學務課は焦眉の念に應ずべく社會局と共力して適當の方法を講じ近く何等かの實行に着手する筈である是非社會の深厚なる同情と援助とを希ふ次第である。



# 個人對話の教育價值

## —保育の實際—

倉 橋 惣 三

一

おはなしの教育價值に就ては知らないものはない。幼児教育の方法の中でも、最主要的なもの一つとして、誰れでも、之れを重視し、また苦心する。しかも、その所謂おはなしは、先生がして子どもが聴くお話である。話し手と聴き手とが、はじめから分けてあるお話である。そればかりか、そのおはなしは其の話しの始まらない前から出來て居るもので、それを先生が子どもの前に持ち出して來るのである。

そこで、どんなものを持ち出して來るか（おはなしの選擇）というふ風に持ち出すか（おはなしの技術）といふことが大切でもあり六かしくもある問題になる。そして、その兩方がうまくいつた時に、保育の方法としてのおはなしの價值が發揮せられて來る。其の選擇は用意であり、技術は工夫である。つまり、用意と工夫とで、おはなしが子どもに與へられるのである。その用意したものを持つて、その工夫したしかたによつて、いざとばかり、子どもの前に立つのが、先生のおはなしである。

ところが、斯うした、いはゞ多少開き直つたおはなしのほかに、先生と子どもとは、いつといふこともなく、何といふ



ともなく、どちらからといふこともなく、おはなしを交換する。えへんと咳けらひをして始める譯でもなく、しいんとして必ずしも耳をそばだてる譯でもないから、おはなしをして居るか居ないかも、恐らく多くの場合心づかずに居る位のであるが、これがなか／＼教育上意味の多いことである。あの豫め用意を以てせられるおはなしに、必ずしも敢て劣らない教育價值をもつものである。そしてまた、なんでもないことの様で相當に六かしいことでもある。あの細かい工夫を以てせられるおはなしの六かしさにも、決してまけない六かしさのあるものである。

さて此種の會話をなぜ個人對話といふか。聴き手話し手が分れないで、徹頭徹尾、あひ對のことだから對話といふのはいいとして、特に個人といふのは何故か。なにも一人對一人のシングルゲームに限らず、先生對、とりかこむ數人の子ども、先生も亦、數人といふ様な場合がいくらもある。それを特に個人對話とは何故いふのか。そこには一寸考へて置くに値する意味がある。

あのおはなしといふものでも、聴き手一人といふことはいくらかもある。しかし、大抵は多勢に聴かせるのを普通として、さて現に聴いて居るものが多勢でも一人でも、おはなし其のものに大した變りはない。話し方には自然多少の違ひがあるけれども、一人に聴かせる桃太郎、多勢に聴かせる桃太郎といふ差別があらう筈はない。之れは、聴き手の數に何の關係がないといふよりも、聴き手の有無さへも、桃太郎のおはなしの存在には無關係なことだと言つた方がいゝのである。つまり、桃太郎といふおはなしは、話し手、聴き手の間に取扱はれる前に、一つの童話として存在して居るのであるだから假りに一人の聴き手に話して居る時でも、個人童話などいふことはない。

しかるに、對話の場合に於ては、その相手が一人と一人とである場合は勿論のこととして、人數は多勢が居るにしても、話そのものは個人性のものとして行はれるのである。便利上、皆さん、皆さんは皆さんのといふ様な言ひ方のせられる時も、其の話のねらひは一人々々へ向けられ、或は、一人々々で受けとめて居るといつていゝのである。そうでないと、

此の心持ちが徹底しないと、折角くの對話が演説になつて仕舞ふ。對話はおはなしとも違ふが、演説とも違ふ。演説は諸君よと、群衆に説く、對話は、どこまでも、一人々々へ話しかける。そして、一人々々からの受けこたえを俟つ。

そんな譯で、個人對話と名をつけることにするが、實は、名をつけたりすると、其の一番大事な特色、即ち純自然的といふことを損じ易い心配もある。此の名はいはゞ、ありとも知らぬものを空氣と呼ぶ様なもので、平生は忘れて居た方がいい。さあ太郎さん、これから個人對話を始めませうなどと言はないことにして下さい。太郎さんが驚くばかりでなく、個人對話そのものが面くらつて仕舞ふから。

## 二

個人對話の教育價值は、數へて見れば随分澤山あるが、その中で一番中心なものは、人間性教育の意味に於て、したしみの教育の出來ることである。之れは、之れ以上説明を要しない程、分りいふことと思ふが、私の茲にいふのは、個人對話によつて、其の先生と其の子どもとの親しみが出來るといふことのほかに、(此の事自身が非常に有意義なことであるが)人にしたしむ心そのものを幼兒に養ひ得るといふ、一般的教育効果をも考へたいのである。

幼兒教育に於て、親しみの心を養ふの必要なることは言ふまでもないが、その方法とでもいふものがあるとすれば、つまり、親しみの経験をさせるといふことに他ならない。勿論、親しみは人間の本性の一つで、外から養ふといふべきものではないが、打ちすてゝ置いては、内部の本性も充分に育たないことがある。而して、内にあるものを育てるには、之れが適當に外にあらはれて、人性が人生の事實となる機會を與へなければならぬ。此の機會が與へられないと、性はあつても、内に閉ぢこもり、時には、多少萎びて仕舞ふことを免れなかつたりする。又時には、折角くの美しい強い本性が、適當に外にあらはれて其の自然の満足を得られないために、妙に、こじれた、いはゞ變態的のものにならんとも限らない。

勿論、他の方面からいへば、したしみは心の内の事實である。外にあらはるゝ、外からの満足などいふことは浅いことに過ぎない。そういふ傾向が多くなると、あらはれ易いが浅いものになるといふ心配も言はれる。一應理のあることは相違ない。したしみ、したしみと言つて、栓のぬけた桶の様にたゞ、あらはれ易い情の持ちぬしになることの、誠にくだらないことは言ふを俟たぬ。容易には漏れ出でぬが、出づれば澄み透つて居る岩の眞清水の様なしたしみが貴いことも言を俟たぬ。しかも、たゞ、いたづらに閉ぢこめて、こじれた心になるかも知れないことは、子どもの心の正しい發達として、何より憂ふべきことである、こういふ意味に於て、したしみの教育の一つの仕事は、心の内の親しみが外に、あらはれ、また、外からの親しみが受け入れられる公道をつくつてやることである。個人對話は、その心と心との間のみちをあける一つの方法である。

次に、もう一つの大きい價值は、此の個人對話によつて、個人的に心のはたらきをすゝめ、促し、導き得ることである。子どもの心の口を、あんと上に向かせて、上から物でも押し込む様に教へ込むことの、眞に心のはたらきを鍊る所以でないことは言ふまでもない。と同時に、子どもの心を、自學々々と、たゞ稻子のやうに跳ねさせて、それだけで、心のはたらきの完い養ひの少しも出来ないことも言ふまでもない。どちらにしても、子どもの心の教育は、もつと親切なことでなくては出来ない。丁度擊劍の腕を磨くのと同様に、先生が相手をして、撃たせて見たり、受けて見たり、撃ち込んで見たり、受けさせて見たり、その間に、腕のはたらきが進歩する様にしむけてやるのでなくては出来ない。個人對話は、たとへば少し向きが違ふが、心のはたらきを鍊つてやる、心の仕合ひである。

よく先生のおはなしは聴く子であるが、先生とお話の出来ない子がある。その責大抵は先生の方にあるを常とするが、子どもとしては、心の無精な子どもである。先生には話したがる。しかし、自分ひとりしやべることを知つて居て、人の話をじつと聞くことの出来ない子どもがある。之れ亦、其の責、大凡そ先生にあるが、子どもとしては、心の落ちつかぬ

い子どもである。共に、此のまゝでは、心の進歩の上に非常な損なところに居る。直してやらなければいけない。

勿論、子どもに、直ぐに、あの話好きの隠居さんの様になれといふことは無理だ。無理であるのみならず無用だ。無用であるのみならず、時に危険だ。老人のは、時によると、話題の内容には興味はなくて、たゞ、そうした話のやりとりの間に、ハ、ア、ナル程、いやどうもその、ですかね、斯うも考へられますね、つまり言ひ方次第ですな、御尤もくを楽しんで居ることがある。之れは對話を弄して居るのであつて、茶味はあつても人生味はない。子どもは、そんな不真剣な話はしない話より事實だ。事實の興味がづく限りの對話だ。そこで、老人の様に對話を味つてるといふ様なことはない。其の問題の事實興味が盡きれば、さつさと中止もすれば、勝手な結論へ飛躍もする。話してる傍へ犬でも來れば直ぐ其の方へ飛んでゆく。ちつくりと、老人同志いつまでも茶をのみ煙管をいちくつて面白がつて居るといふ様な風の對話を、子どもに要求したら、子どもの眞性を害することになる。おばあさん子が、冬季炬燵大學で仕込まれて、いやに、理屈っぽいこまつしやくれた口振りをする、小隠居さんになつたりするのは、其の例である。

しかし、之れを以て、個人對話の教育價値をすてゝはならない。殊に達道の大師範になれば、廊下や、庭の立語で、電車の中の十分二十分で、すつかり、見事に、活きた心のはたらかせ方が養ひ得ないものでもない。

## 幼稚園細目（續き）

馬場 定 一

### c、題材

子供の経験の大部分を産み出した中心が家庭といふ制度にあるといふ事實を承認する以上、題材の選定に關しては、この事實の影響を免れる事は出来ない事である。例へば可愛がられて育つた子供だと、自然界から受ける感化の外に更に家庭の感化といふものが附加せられるわけである。か様な譯で子供の経験の内容は其の量に於て多大の變化があり、從て又、小さい乍らも吾々が子供に提供し能ふ子供の周圍の世界の活動の度合も、幼稚園の異なるに從て、量的に著しく變化のあるものである。故にこの事實は、異つた階級の子供や、色々違つた條件の下にある子供等に對して、一定共通の細目を工夫する事に關して當然起るべき讀者の疑問に答へるわけである。此の種の細目が既に熱心な歸依者を持つて、稍廣く適用せられて居ると云ふ事實がないの

ならば、此の疑問を論議する事は、或は餘計な事かも知れないが、實際はさうでない。著者はこの種の細目の採用せられて居る實際に就いて、長い間或る二つの都市に於て親しく觀察して、其の結果、次の様な結論に到達したのである。即ち、貧弱にして平凡な保姆の手に使用せらるれば其の過程は生命なき機械的のものになり、其の保姆は單に文字の遵奉者に過ぎない事になるし、又能力ある保姆が之を用ふれば、能く其の子供等の要求に應ずる事が出来たといふのである。

一つのプログラムでどの階級の子供にもあてはまる様に之を編成する事はとても不可能な事であるが、プログラムの大體の體裁を一樣にする事は出来ないものでもなからうと思ふ。但し其の詳細や適用に至つては大なる相違のあるべきである。假りに、都市の裕福な上品な家庭に育つた子

供、田舎や海岸の生活を知つて居る子供の一群と、之に對して、少しも慰藉の無い家庭に育ち、其の周圍の社會生活や社會的教化等に至つては何等の調和も無い、汚い場末の長屋に生長した子供の一群とを採つて、前者の要求に應ずる様なプログラムを作つて、之を後者に適用したとせよ、果して如何なる反應があるだらうか、否、之に因つて如何なる反應を求めんと欲するのだらうか、更に之を轉倒して、貧民窟の子供の要求や經驗に適應する様なプログラムを作つて、之を富裕な家庭の子供の自發的活動や創造的生活を誘起する爲に適用したとせば如何なる結果が得られやう、刺戟の微弱、發達の阻害の好適例であつて、其の實施は、單に子供の力を萎縮せしむるに過ぎないのである。更に又、兩者何れにも眞に適應しない、妥協的模範のプログラムを計畫して、之を兩方に使用したとしたならば如何、其の結果の失敗に終る事は之を豫言するに躊躇するの要は無い。是は單に其の内容が不適當であるばかりで無く、靈感的性質を缺いて居る爲に、どんな方法を以て之を適用するも遂に平面的な結果に陥つて不利を招くの外無い。故に吾々の

目的が子供を發達させるのにある以上、題材の内容は、子供の要求に應じて變化のあるべきが當然である。

幼稚園細目の題材に關して警戒しなければならぬ事は、活動の計畫に餘りに念を入れ過ぎるといふ危險に陷る事である。即ち興味の世界を餘り廣くおぼはんと企てたり、又子供等が未だ其を受けるには、身體的にも、精神的にも準備の出來て居ない様な經驗を打込ふとする事である。是は恐らく如何に長き經驗を持つた保姆でも、一樣に犯して來た罪であらう。吾々は、子供の精神的發達に熱心過ぎる爲に、自然の限界を乗り越えて來て居るのである。細目の題材を簡單にする事は先輩の保姆諸姉が經驗の結果始めて之を能くする事が出来るので、若い保姆は先輩諸姉の經驗を參考して、子供の能力に相應すべき理想を以てその仕事を始めるべきものである。

教育的價值の事を述べた場合に説明した如くに、題材の爲に生活の或る形を選ぶに方つては、保姆は自分の特別の組の興味や經驗を土臺にしなければならぬことを繰返し度いのである。之に就いては法則を定める譯には行かないが

子供等が導いて呉れるのであるから、之に従てその興味を有益な方面に轉ずることを研究しなければならぬ。例へば或る幼稚園の保姆は、其の組の大きい方の子供と一緒に、五月の全月を、溝鵜、駒鳥、葦切、啄木鳥の四の鳥の研究に費した事があつた。此の研究に與へられた時間は毎日唯僅かづゝであつたので、それ程充分な研究では無かつたが、幸鵜鳥以外の鳥は、園内に其の巢があつたから、保姆は戶外生活と此の興味ある研究とを最も楽しい方法に組合はせる事が出来て、子供等はクレヨンや粘土で、この研究を一貫して得た觀念に子供らしい發表を與へ、且つ毎日の出來事全部を話し合ふべき充分な機會が與へられたのであつた。是は子供等や保姆にとつては實に有益な興味ある事ではあつたが、若し子供の環境や興味が、その出發點として具體的の知識を提供しなかつたとしたならば、或は却て馬鹿氣た過程であつたかも知れない。『子供は抽象的の事に對しては之を諒解する丈に充分年をとつて居ない』といふ事を保姆は絶えず頭に持つて居なければならぬ。

#### d、過程

目的の追求に次いで起る問題は手順であつて、之は子供から分離せられるべきものでなく、唯子供の要求や正常なる經驗と調和を保つて行はるべきものである。『手順は、子供の創意に應じた動作を教師が計畫したもののあらはれでなければならぬ』と誰か云つたが、其の通りである。幼稚園時代の子供が自己を表現するのは、遊戲、談話、研究及構成や表現に對する小さい努力と云ふ様な、種々に變化する活動の形に依つてゐあつて、是等の活動の形は、實施の手順を吾々に導く所の中心核を形作るものである。子供等は其を貫して今日まで發達して來たのであつて、吾々は此の活動を探り之を更に大なる生長と發達の手段に利用するものである。子供等が幼稚園に這入つて來ない以前にきたつて居た方法から、今子供等を分離するのは、單に吾々が子供の現在及將來の要求に應ずべき見地から、今日までのこの活動を更に安全にして健全なる進路と信じて居る所へ、意識的に導くと云ふに過ぎないのである。

幼稚園に這入つて來た當時の子供の遊戲は概ね次の三つの形を以て現はされるものである、力を働かせるもの、他

の子供に對して自分の力を量るもの、及模倣、之である。子供が自分で小さい遊戲の世界を建設する様な想像的遊戲は未だ此の時代の一般の特徴ではなく、又純粹の劇的遊戲も未だ發達しては居ない。是等はずと後になつて起るもので、子供が更に發達しても少し豊富な經驗を持つ様に環境付けられて來れば、かゝる形の遊戲は幼稚園の進歩して行く過程に於て正當の部分を構成するに至るものである。

是等の自然的遊戲から、ランニングやスキッピングやゲーム等に似た様なものや、又は傳統的の遊戲等が生れて來るので、其の間模倣が著しい勢力を持つて居るのである。是等から吾々は勞働的遊戲の或るものに導くので、其の間に於て、吾々が取扱つて居る子供の發育の時代に應じて、模倣や劇化の調子を強めて行くのである。

言葉を使ふ上の子供の能力は幼稚園に這入らない前に受けた感化に依りて一樣ではなく、その話方は家庭に於ける躰の特質の殆んど間違の無い索引である。保姆は先づ子供の使ふ言葉から出發して、言葉を構成する事や發表の方法を訂正したり、改良したり、更に子供の生長しつゝある智

能に相應して文學上の形への紹介に由りて子供の國語の知識を擴大し、豊富にする事等に着手するのである。かやうにして吾々は、注意して擇んだお嘶やリズムに富んだ詩を要求するに至る様な手順を見出すのである。

探究は、又好奇心とも言はれるものであつて、かう云ふ形で現はれる子供の活動は屢々兩親の失望を招き、その家族からは、小さい子供の上に一再ならず罪の宣告が下される事であつた。しかるに此の活動こそは保姆にとつては、幼兒期の主なる資産の一を形作るものである。保姆は此の力を利用すべき手段と機會とを供給しなければならぬ。その方法としては建設的方針に依ることである。故に保姆は子供が満足する丈研究もし發見もする事が出来る爲に、事情の許す限り何時でも自然界に遠足して、歸つて來たならば、子供を自分の周圍に集めて、新しく得た知識や活潑にか不活潑にか見出した新しい物象などを話題として面白い會話をすることが出来る。又保姆は、或は別々に離したり、一緒にしたり、又は澤山の新しい、心を惹きつける方法で組合はす事の出来る材料例へば積木の如きものを供給する



事もある。要するに保母としては、子供に對するその反應が、肉體的にも、精神的にも、又は道德的にも福利となる様に、此の眞に立派な活動に多くの正當なる出口を與へる事である。此の研究本能に應ずる爲には、保母は又、建設の企に於て現はれて來る所の活動の爲に用意することであつて、積木や砂床での遊は此の要求に應じ、又所謂作業 Occupation の一部も此の要求に應ずるものである。子供等の發表の企は物質的に變化するものであつて、茲に於て再び家庭の感化は或は刺激ともなり又は防止ともなるのである。例へば、家庭にクレヨンや黒板があつて之を試みて居た子供は、始めて幼稚園に這入つて來ても其の發表的物質の使用には非常に容易であるが、之に反して、家庭に斯かる刺激物を缺ぐ子供には發表的仕事は多少新しい活動の世界となるわけである。幼稚園の方法は、供給せられたる材料と、活動をして有利ならしむるに充分なる有ゆる指導とに由つて極簡單なる發表的仕事から、もつと六かしいものに至るまで、絶えず子供の能力を心に持つて之を指導して行かねばならぬ。板並べや箸は特に此の形の活動に役立

つものであるが、クレヨン畫、彩色畫、切り抜き、粘土細工等の更に自由な仕事も亦緊要なる材料となるものである。

保母が其の出發點としては、等々の活動を選択する目的は、稍目あての無い子供の活動を、目的に満ちた有用なる活動に導き、かくして、直接間接に子供等をして其の環境を知らしめ、之に適應せしむる様助けるにある。是は子供の經驗を統一せしむべき手段の第一歩である。

目的、題材及手順を定め、更に是等の細目の形が子供等の生活に自然的に働く様にした上で、尙その細目が細目らしくならないで、寧ろ小さい子供の團體と、保母の精神とが一團となる様にして、以上の種々なる局面を調和せる全體に纏める事に注意しなければならぬ。

## 細目の實施

### 一、手順の二途

保母の仕事の計畫を實施する手順に二つの道がある。其の一は家庭、自然、實業界及宗教等の間に暗に含まれたる關係聯絡を基礎として編成せられたる細目に導くことであ

る。此の仕方に子供が密接して來れば、少くとも多少でも以上の色々な關係を意識する様になるだらうし、又其の結果子供の道徳的生活にも、精神的生活にも有利だといふ事が豫想せられる。第二の道は、或る一組の子供の日々の活動に注意を集中して、是等の活動の線に沿ひて精選したる過程に由る手順に導くものである。此の手段に於ては、子供の身體的發達に主力を注ぐべきであつて、精神的態度と道徳的習慣とは適當に指導して行かねばならない。前方法は注意深く編成した細目を要求し、後者は偶發事項に従ふ行爲の細目が編成せらるるわけである。

## 二、兩者の批判

右二手段に就いての爭論の結果色々な批判を生じた。前者の場合に就いては、その行爲の計畫は、子供には未だ發達して居ない統覺の力を要求する事になるのだと云はれ、又其の崇拜者たる保姆に實施の結果を餘り大袈裟に云はれて居るのだから、結局之を用ふる人々は其の結果から實際以上の價值を要求して居るのだとも云はれるのであるが、之は解釋を誤つた場合である。後者では、其の仕方が計畫

的でなくして餘り撓倖をあてにし過ぎて老練な保姆や、技巧に富んだ保姆でなければ思ふ様な結果が得られないから無定見な仕方に陥り、從て子供等は適當に訓練せられないし發達もしないと云はれて居る。公平な觀察者は兩者の批判が能くせられて居る事を容れなければならない。即ち兩者共、危險があると同時に慥かに好い所である。

## 三、幼稚園の改革に對する強き傾向

幼稚園の改革に對する今日の要求は、今に始まつた事では無く、既に主張せられて、今は世間に能く知れ渡つて居る事實である。何となれば、最も保守的な幼稚園でさへも其の過程の變化、殊に細目の實施と、恩物や作業の材料の使用との二者に關しては其の改革せられて居る事が注意せられるからである。場合に由つては根本的にも變化されて古い制度に關する總ての事は價值なしとして投げ捨て、更に之を顧みないで、新しい考や新しい方法は熱心に適用せられてさへ居る。然し乍ら此の事は慧眼な人のとらないところで古い考にも善い點は充分にあり、且つ永遠の價值を認むべき點も尠く無いので、古いからと云つて新しいもの

に従て之を捨てゝ顧みないといふわけには行かない。此の偶像破壊の方法には餘りに見世物的な所があり。吾々は之を始めた人々の誠意と深さとを疑ふものである。而もなほ吾々は、改革せらるべき幼稚園の要求即ち現今教育に於ける最も善きものを持てる同列の幼稚園の要求には應じないわけには行かない。之は現在の幼稚園組織を破壊せずとも、單に之を取捨する方法に依つて其の目的を達する事が出来るものである。

進歩は或る過激論者が明かに信じて居るが如くに、今日の組織を破壊し分解して行はるべきものではない。今は吾々は改革に對しては全く熱狂的態度であるが、而も或る保育者の眼には改革と見えて居る事でも、實際は全く進歩は其の跡を絶つて居る。かくして吾々は、四方八方に耳を長くして新しき計畫——新しい聞文の新しき計畫を求めて、其の後を狂人の如くに追ひ廻して居る。幾多の保姆の見世物を見せつけられて居る。而して其の結果は如何であらう？ 理想的の狀況を得るでなく、統御と自發の巧な平衡の上に築かれた幼稚園となるでなく、多くは無秩序と破壊と

がその目的であるかの如く見ゆるものである。舊いものは總て捨てゝ仕舞つたが、之に代るべき何物も持つて居ない、「結局どうしやうと思つて居るのか？」何故に此の改革が必要なのか？」に對して何等判然した答も無く、信服出来る様な説明もし得ないのである。

私は今日の幼稚園法には改革の必要があるといふ事は承認するものである。吾々の現在の仕事の中には斷然切つて捨てなければならぬ局面があり、又現今の組織に合體せしむべきものもある。殊に四歳より七歳迄の間の子供の肉體的並に精神的要求に關する一層新しい思想に就いてはさうである。併し其の改革は充分に考へて、巧に之を行はねばならぬ。又吾々は如何なる傾向に向ひつゝあるかを自覺し且何故吾々がこんな事をして居るかを正直に答へる事が出来なければならぬ。でなければ吾々は教育者といふ資格は無くして、寧ろ物好きな人間と云はねばならぬ。

或る保姆は「私共はもう恩物は使つて居ません、今は誰も恩物なんか使つて居ないですから」と云つて居るが「何故使はないのですか？」と尋ねると「さあ、何故でせう、で

も今ぢや、何處にあるのかすら知つて居るものはない位ですもの」と、かくして此の考無しの娘さんは、子供の爲には最も勝れた發表の材料であるものを投げ捨てゝ仕舞ふのである。しかも之に代るべき適當なる代用物を探さうとさへしないで、どうせ何か代用物が出来る筈だからと、唯機會の來るのを待つて居る。子供は毎日何かをして生長して行くものだから、日に醒めてゆくその力を打ち込むべき材料が與へられなければならない。幼稚園の大切な價値の一つは子供等の活動に對する適當なる出口を供給してやる事である。若し子供等から適當なる活動の手段を取り去つて、幼稚園の室の四方の壁から勝手に何か刺戟物を發見させる様に捨てゝおいて見よ、必ず次のやうな格言を想起させられることである。

忘れて居る手には惡魔が惡戯をさせる。

Satan finds some mischief still

For idle hands to do

吾々は今日幼稚園に必要な改革の緒につくべき最も都合の好い時である。モンテンソリー法が公開せられて以來、

幼児教育に於て自由の必要な事が幾分か通俗化せられ、又お役人達の考もこれまでよりは、よく幼児教育の要求に調子を合せて貰はれる様になつた。故に、是等の要求に對して一般の注意が惹きつけられて居る間は、吾々は幼稚園の子供に對してもつと確かな、そしてもつと正常な生活をさせる事が出来る様な環境を供給し得る様に、もつと都合の好い案や、子供の身體的訓練に對する適當な裝置や、花園、飼育動物に對する餘地等を、幼稚園が命令的に要求するの都合が好いわけである。吾々は幼稚園の進歩改革を要求する人々の前には困難と障害の横はつて居る事は承知して居るし、又學務委員の無關心と冷淡とは充分知つて居る。併し吾々は唯免ることの出来ない消費を實現して居るのみである。吾々は幼者に對して命令的な無條件の訓練を信ずる人々の持つて居る反對や敵意は充分之を認むるものである。かゝる障害のあるに拘はらず尙幼稚園の改革をなす爲に協定を経たる一致の行動を取るべき時の熟して居る事を信ずるものであつて、此の場合起る所の障害と、之に打ち勝つべき困難とは、之を幼稚園運動の開拓者の遭遇し且つ

打ち勝つて來たものに比すれば實にいふに足らぬ些々たる事と信ずる。今日既に幼稚園改革の實行の爲に働いて居る保母も澤山あるが、吾々の必要とする所は一致の行動にある。

「教育は、其の教授も訓練も、根本的に、第一義的に、必ず受働であるべきであつて（見守ることと保護する事のみは能働的に之を行ふが）、命令的、絶對的な干渉は決してなすべきでない」とは八十餘年以前フレーベルの述べた記憶すべき言葉であつて、今尙依然として特殊の意味を持つて居る。吾々がその立場を、より一層自由なる幼稚園に取るならば、當然このフレーベルの教訓に一致するわけである。而して事實は、此の叙述の意味は總ての保母に理解されなかつたか乃至は學校を出て後其の意識から逃げ去つたものらしい。保母は其の事の實際に適用せらるゝのを見なかつた事は事實であらう。所が今日では、幼稚園の外観丈で、このフレーベルの實際の例證を見せつけられて居る。モンテッソーリ女史はその「兒童の家」に於て「發育の爲の自由」を高調して居る。其の實際は彼女の理想と全然一

致して居るものとは思へないけれどもなほフレーベルの直弟子の多くのものよりも一層慥かにフレーベルの或る理想を例證して居る。多くの保母は、仕事の或る組織に従ふ事や又或る結果に到達せんが爲に熱中して、幼稚園組織に活力と永遠性とを附與すべきフレーベルの哲學の根本主義と其の理想とを忘れて居るのである。

幸にも數年前この方多くの考ある保母は、自分の幼稚園をもつと自由な空氣にしやうとする考が起つて、子供等に總ての幼稚園の仕事させざるのに其の個性の發表をもつと自由にする事を認める傾向が出来て來た。吾々は視學や校長の事を始終考に持つて居ねばならないし、又多くの保母がその理想の實行を貫徹する上に就いては随分鋭い防止のある事をも承知して居なければならぬ。自分の上官の意志に公然反對する事は政策としては勿論不得策ではあるが、自ら健全な教育上の見地に據りて建設したる理想と信ずるものを放棄してまでも上司や校長の御機嫌を伺つて、みす／＼機械的方法に陥る事も亦間違つた事である。今は進歩の時代である。視學や校長にしても追々其の考が變つ

て行く事と思ふ。或る視學が數年前、小學校初年級で、手工の初歩と其の仕事に必要な子供等の間の禮儀の交換とを以て「教育の神聖を汚すもの」とした事があつたが、其の人も今日は熱心なモンテッソーリの辯護者となつて居る。たとへ視學の反對があつても、自由と、自も活動に關する

## 玩具は發見發明の一街道たること

藤 五代 策

凡ての子供は活動的で、物事を破壊し、又建設する性能を有つてゐる、しかも時々刻々に變化し、新規を好み不思議を歡ぶ氣風を具へてゐる、玩具はその潑刺たる子供の心理狀態と全く適合してゐるところに、大なる價值特徴が籠れるのである、或人が玩具の生命は意匠にありと絶叫したのも味ふべき眞理であらふ、夫れ故玩具を考案し製作するものは、是非とも兒童心理に精通しおくことが肝要である、或る時獨逸で五百人の子供を集め、彼等の最も好める犬の

自分の理想とをその細目の中に働かせる事は出来るのである。況して、賢明なる、如才ない保母ならば、いつかは、視學に、よし自分の主義に全然同意させる事は出来ないまでも、其の實行を承認せしめる事は出来ると思ふ。

畫を描かせ、其の特徴を採りて玩具に作り非常に歡迎されたと云ふことである、又此の國では時々多額の賞金を授じて玩具圖案の懸賞募集をやる、さうすると國內の錚々たる教育家、宗教家、工業家などが先を爭ふて應募するのである、これがため當國の玩具は一般に斬新奇抜なものが多く、子供には最も多く愛玩されるのである、斯様に面白い玩具を智識慾旺盛な子供に與へることは、恰も大旱に豪雨の天恵あると同様で、如何に彼等をして工夫發明の動機を附與

するであらふか、少し智力の進んだ子供は、一の嶄新な玩具を見ると、之を手本として直ちに同様のものを模造するか或は之を参考して、他の玩具を創作するのである。而して其の創作は申すまでもなく彼等子供の發見發明の發露である。

彼の發明家が高尚複雑なる器械類を發明する際にも、必ず玩具と云ふ一大街道を往復するものである。「ワット」の蒸氣機關、「フランクリン」の電氣、「エジソン」の電話、蓄音機、活動寫眞等の發明の如き、之を大成するまでには幾千回、幾萬回かの雛形を作り、實驗に實驗を重ねて、遂に蓋世の大發明をなし遂げたのである。而して此の雛形と云ふは所謂玩具のことであつて、發見發明進行中の一大街道だと謂ふことも出來やう。

農商務省の特許局にては、各種の特許要目に次の如き區別が示してある。

- 一、發明。從來世ニ存セサル新規ノ物品又ハ方法ノ案出。
- 二、實用新案。從來世ニ存在セル物品ト雖モ其ノ形ノ構造又ハ組合上ノ新規ノ實用アルモノ、考案。

三、意匠。或物品ニ美シキ外觀ヲ呈セシメ趣味ヲ與フル考案。

四、商標。生産、製造、加工、選擇、證明、取扱又ハ販賣ノ營業ヲナス者カ、自己ノ商品ヲ他ノ同種商品ト區別セシカ爲メニ使用スル標識。

近時我が國人の發明熱も漸次旺盛に赴きつゝあるも、之を歐米の諸先進國に比べると、甚だ幼稚なもので到底比較にはならない今參考のため最近の調査に掛る我邦各種の出願數を、掲げて見やう。

種類	一ケ年の出願數	一日の平均出願數
特許	一一、〇一七	三〇
實用新案	一九、七一七	五四
意匠	二、七七六	八
商標	二四、八六五	六八

次に世界各國に於ける發明特許の數を示せば左の通りである。

國名	一ケ年の出願數	一日の平均出願數
北米合衆國	五七、三四七	一六九

獨逸

三〇、〇四九

九〇

英吉利

二一、八三九

六〇

佛蘭西

一一、九〇七

三三

日本

九、八八三

二七

伊太利

七、一五五

二〇

墳地利

六、八九四

一八

右表によるときは、我邦の發明特許は第五位にあり、併かも米國の六分の一、獨逸の三分の一、英國の二分の一と云ふ有様である、序に我國人と歐米人との工夫發明に關する相違を對照して見やう。

## 日本

一、偶發的のもの多く學理に缺く

二、單純にて結果を急ぐ

三、家內的にして日用品多し

四、獨斷的にして實驗に缺く

## 歐米

一、必要に迫りて考案し學理に基く

二、複雑精緻にして永遠的なり

三、大規模にして機械的のもの多し  
四、研究的にして充分實驗されたるもの多し

此の表によりても、我國人の工夫發明は、歐米人のものに比べて甚だ幼稚であることが判かる。

由來我國人は模倣に長じ、忽ち之に達する長所を有すると共に、又多くはそれ以上に進歩することの出來ぬ短所を有してゐる、彼の獨逸人の模倣に長することは、我國人と酷似してゐる、併かし彼等は良く之を咀嚼して、その獨特の科學的智識を適用して、殆んど獨創的のものに改良し果すのである、かうして彼等は僅々半世紀を出でずして、先進國の佛を壓し、英を凌いで、獨逸近代の文明を作り上げたのである、我邦の如きは將に彼の獨逸を學ぶべき時機である、それ故第四十四議會にては、發明獎勵に對する建議案可決せられ、其後政府の肝煎によりて、理化學研究所の設置及び發明研究所の建築と云ふやうに、發明界も俄に覺醒して、科學的立國の基礎を樹立せんとする新傾向を生じて來た矢先き、今回の大震災大火によりて此等の計畫の大半は根本から破壊され終つたのである、併し大震災は考へ方



によりては次ぎに來る新帝都復興、産業復活の興奮劑となるのである、就中玩具は諸工業中最も速に復活し得べき幾多の特點を有つてゐるのであるから、此際凡ての玩具に新意

匠と科學力とを應用し、一般國民をして發明發見の新城に導き入れる方策、即ち玩具街道を歩行されんことを祈るのである。

## 雀の學校

土川五郎振付

### ○歌詞

(清水かつら氏歌  
弘田龍太郎氏曲)

チーチーパツパ。チーパツパ、

雀の學校の先生は

むちをふりくちーパツパ、

生徒の雀は輪になつて

お口を揃へてチーパツパ。

まだくへけないチーパツパ、

も一度一緒にチーパツパ

チーチーパツパ、チーパツパ。

## ○遊 戲

チーチー。 左足を左へ右足をあげ兩手を左右に開き兩手

頸をあぐ此時左踵をあぐ。

パツパ。 右肩を下げあげたる右足を左足の前に下げ手頸

の下に手先を上にし斜左上を見る。

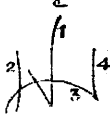
チーパツパ。 前の「チーチー」と同じことを反對に右側に

て行ふ。

雀の學校の先生は。 兩手を下ろし更に前方より上にあげ

つゝ四步前進す。「先生は」にて左手を腰に右手にタクト

トを持てる如くして「は」にて少しく押へる。

むちをふり／＼。 タクトを  の如く振る。

チーパツパ。 兩掌を合せ體前に左の甲を下に指先を前方

に左肩を下げ、上體をやゝ前に屈し、指先に目を注ぎ

三回指先の開閉を行ふ。

生徒の雀は。 兩手を左右に開き四步後退して互に肩に手

をかく。

輪になつて。 左へ一步兩足を揃へ、右へ一步兩足を揃へ

る此時始めに上體を右へ次に左へ傾く。

お口を揃へて。 チーパツパ。 顔を左へ次に右へ左へ右へ

四回に向ける。

まだく。 兩手の拇食、中指をまとめ之れを前方より上

にあぐ。

いけない。 兩手を左右に開く。

チーパツパ。 左手腰に右タクトを「むちをふりつゝ」と同

じ様に振る。

も一度。 上體をやゝ左前に傾け左の生徒に合圖する如く

タクトにて指す。

一所に。 右方に同じくす。

チーパツパ。 兩掌を合せ體前にて開閉を行ふこと前の「チ

ーパツパ」と同じ。

チーチーパツパ、チーパツパ。 兩翼を上下しつゝ上體を

やゝ右方に傾けて左足より極めて輕きフキツプ(跳躍)

にて四回に右方より一回轉す。(終)

(大正一三、一、三作)

## 『家なき幼稚園』を訪ふ

三〇

### 倉 橋 惣 三

大阪毎日新聞社の橋詰良一氏は、可なり以前から『家なき幼稚園』といふものを創めてゐられる。其のお話は同氏からも、他の人々からも豫て聞いてゐたが、今度その現場を訪ふて、一層の興味を引き起した。二月の廿四日同幼稚園主催の純真保育講演會が、大阪毎日社樓上で開かれて、それに招かれて行つたを機會として、大阪郊外の池田と寶塚との二ヶ所を訪ふことが出来たのであつた。

家なき幼稚園は、此の名の卒直に示して居る通りに、園舎を有しないで行ふ保育である。池田では、神社の構内を中心として居り、寶塚では、清流に沿ふた自然の松林の間で行はれて居る。私の訪問した時は、合憎日曜日で、幼児の喜戯の實際を見ることの出来なかつたのは、役者の居ない舞臺裝置だけを見たようなもので、參觀としては極めて不完全なことであるが、私としては、充分に要領を得たの

であつた。

先づ寶塚の方からお話して見ると、驛から右へとつてゆくと、極めて閑雅な住宅地があり、その奥の方に廣やかな平地が流れに沿ふて、ゆつたりと打開けて居る。一帯の松林、流れに架した橋、橋の向ふの低い連丘、なんといふ優しい明るい美しい風致であらう。此の松原を愛の松原といひ、此の橋を千歳橋といふ。この幼稚園の開園當日の光景を撮つた活動寫眞を後で見たが、先づ字幕に、愛の松原千歳橋と出て、鮮明な光線下に此の景色が寫し出された時は、教育の活動寫眞といふよりは、新派劇のフィルムでも始まるかと思へない程ロマンチックな味が濃かつたが、現場の實景が、實に其の通りロマンチックな自然美の粹といつていひ過ぎなのである。これは富豪某氏の所有地を、特に此の事業の爲に提供せられたのだそうだ。

その松林の一方に瀟洒な小亭があつて、それが、幼児の集合所に用ゐられる。その後ろに、簡単なテントが張つてある。その外に、保育室も遊戯室もない。柔い土と、草と、蒼い空と自由に馳けて行ける廣さ其のものが、此の幼稚園の世界なのである。私は、その橋の袂に立つて、快活に且つ忙しい、幼児達の遊び姿を、あり／＼と想像の目で見た。そこには、先生を中心として、歌うたふ一群が居る。松の蔭に、しんとしてお話を聽いて居る一群がゐる。きれいな河原に銘々の辨當を開いて、銘々の水筒を口にあてゝ、樂しそうに食事してゐる一群がある。ふと向ふの方に二人の幼児が馳けてゆく。蝶を追ふて居るのである。一人の幼児が、ぬき足して行く。小鳥に近づいて見ようとして居るのである。先生のところへ馳けて來た幼児が居る。今見つけた雑草の名を教へて貰ひに來たのである。きやつきやと笑ひながら鬼ごつこをして居る子ども達が居る。砂いぢりに餘念ない子どもが居る。向ふの山の形をクレイオンで寫生して居る子どもが居る。なかには、ぼつねんと獨り空を見て居る子どもが居る。——ふと我れに歸つた時、私は之

れ等の幻の様な感想をまとめて、なんとか言ひあらはして見たいとしたが、言葉が見つからない。橋詰氏を顧みて、たゞ、「いゝですなあ」とだけ言つて見た。

池田の方では、また全く違つた情景を見た。こゝは郊外住宅地に近接、といふよりも寧ろ住宅の間にあるといつた方がいゝ神社の構内である。お鳥井の前に、簡素な小さいバラック小舎があり、それが幼児集合所となつて居るが、子ども達は其の中で遊ぶのではない。一度こゝへ集つて、神社構内の浅い森の間に出るのである。風景としても、廣さとしても、極く平凡な構内である。愛の松原千歳橋の様な、特殊な畫趣も詩趣もない。が、それだけに、こゝには人間に近い親しみがある。詩の自然でない代りに、實に人間界の自然である。私はこゝへ來て、實は、ぼつと呼氣をついた様の氣がした。これが、ノルマルの「家なき幼稚園」である。家なき幼稚園といふものの、普通の典型は、これではなければならない。愛の松原の方は家なき幼稚園としては、特殊なものである。あの詩的自然を擅にすることは、幼児達のために、此上もない無比の幸福であることゝ

言ふまでもない。その有り難い程の幸福さには、見るものも亦醉はされずには居られないが、あれを以て、家なき幼稚園の、一般に通用すべきモデルとしてはならない。あの特に恵まれた自然なくしては、いゝ『家なき幼稚園』が實現出来ないといふ様のが、若し聊かでも思はれたら誤りである。『家なき幼稚園』といふものゝ、眞の發展の上に、寧ろ妨げになるかも知れない誤りである。斯うした意味で、私は、ほつと呼氣つく思ひを池田の方でしたのである。

私は思つた。『家なき幼稚園』のある種類は都會の公園の一隅で出来る筈のものである。町並み建て込んだ下町の空地で出来る筈のものである。寺の境内、工場の裏でも出来る筈である。最も小さい『家なき幼稚園』なら、餘り不潔で陰湿でない限り、町の露路でも出来る筈である。それ等が、模範の『家なき幼稚園』ではないかも知れないが、そう考へた時にのみ、『家なき幼稚園』の一つの原理が徹底するのである。私がそう思つた許りではない。大阪の郊外で、此の美しい『家なき幼稚園』を經營して居られる橋詰氏も、去年の震災後の東京を見舞はれた時、特に私を訪ねて、今

の此の東京の有様こそ、『家なき幼稚園』の必要の場合ではないかと、熱心に力説せられたことがある。私は、當時、その貴い意見を實現するの機會を見出し得なかつたけれども、實に適切な忠告として深く同感したのであつた。今、此の美しい『家なき幼稚園』を見て、其の自然美の方面、特殊の方面に酔ふたと共に、其の方面にのみ醉はさるゝことのないために、自らのために、之れを書き添えて置く。

兎に角く、『家なき幼稚園』は、幼兒保育上、意味深い一つの實行である。すぐ之れを行ふと否とに拘はらず、誰れでもいろ／＼考へさせられることの多い問題である。特に、『家ある幼稚園』にとつて、有益なる示唆に富む問題である。(大阪では此の橋詰氏のものゝ外、市の經營にかゝる露天幼稚園がある。)

## お茶の水に歸る

### 倉 橋 生

○昨年九月二日、我が東京女子高等師範學校が全部烏有に歸してから、われ／＼は可なり不便な日を送りました。小石川の帝國女子専門學校内の二つの教室を借りて、兎に角假保育場を開くことの出来たのは、その頃として、どんなに深い好意によることであつたか分りません。今にして、更に感謝の記憶を新たにします。

○假保育場は出来ましたが、器具が全部ありません。いづれ、しつかりしたものを新規につくる迄、之れも假りのもので我まんしなければなりません。そこで、ごさ敷にして、簡単な坐り机を用ひることにしました。その粗末な机の上で、無邪氣に、面白さうに繪など畫いて居る子ども達を見て、私達は、強ゐて元氣そうに笑つて見たりました。○斯ういふ時の同情ほど、我達に喜しいことはありません。ピアノを寄附して下さる方がありました。オルガンを寄附して下さる方がありました。玩具を寄附して下さる方があ

りました。私達は、其れ等の同情を集めて、我達の幼稚園をつくりました。

○學習院初等科の兒童諸君——恐れ多いことながら、宮さま方も御いっしょに——が、震災幼稚園のために寄附して下さつた玩具類も、我達の幼稚園へ頒たれました。私達は、その中に、貴い方の御用ひになつたものもあることを思ふて、その品々を有り難い紀念にいたして居ります。

○その長い日數が、今から思へば短く過ぎて仕舞ひました。そして、三月の二十二日に、お茶の水の舊位置へ歸りました。之れも本建築ではなく、所謂バラックといふて居りますが、何せよ、自分の家へ歸つたのです。私達の喜びは申様もありません。殊に、廣さに於て充分の廣さと、もの皆新らしい心もちよさを具へて居ります。私達は、之れから之れを充實してゆくのです。

○二十四日に、今度幼稚園を了へた幼兒達のために、此の新園舎で最後の集いをしました。子ども達も、幼稚園を去る前に、一度でも、こゝへ來たことを喜びました。この八日から、いよ／＼私達のお茶の水幼稚園が初まるのです。

(四月四日)

# 編輯だより

○長い間の休刊、誠に申譯ないことです。殊に、讀者諸君から屢々同情ある御たづねを頂いて、恐縮にたえません。今度漸くにして、此號を出しましたが、萬事不整頓でお恥しいのです。

○新保育期に入つて、皆さんは、如何にお忙しいことかと申ひます。殊に、關東震災地方の方は、復舊復興の多事と共に、どの位御不自由も多いことかと思ひます。しかも、皆さんの御努力によつて、幼稚園等に盛にならなければなりません。

○我日本幼稚園協會も、たゞ此の雑誌の發刊のみでなく、何かして幼兒教育界に貢獻したいと豫て思つて居るのですが、此際良教育書の發刊をしたいと大に計畫中です。遠からず此の計畫を發表出来るかと思ひます。

○新らしい學年と共に、全國幼稚園界にいろ／＼有益な御活動もありませう。是非御報導いただき度いものです。全國の同志の活動位、興味を以て聽き度いことはありません。

定 價 表		廣 告 料		御 注 意
冊 數	定 價	表 紙	裏 附	
一冊	金參拾五錢	金七拾圓	金四拾五圓	(外國行郵税は一部十二錢の割にて御拂込下さる) ◆本誌購讀御希望の方は定價表により振替貯金で御送金下さい(東京四六壹壹番教文書院) ◆前金切れの節は帶紙に「前金切」と致します。 ◆郵券送金の節は一錢増で一錢切手に願ひます。 ◆本誌の一切は教文書院宛御照會下さい。
六冊(前金)	金貳圓拾錢	金七拾圓	金四拾五圓	
十二冊(前金)	金四圓貳拾錢	金七拾圓	金四拾五圓	
表紙前附	金七拾圓	金七拾圓	金四拾五圓	
表紙裏附	金七拾圓	金七拾圓	金四拾五圓	
普通面一頁	金四拾五圓	金七拾圓	金四拾五圓	

大正十三年三月二十八日納本  
大正十三年四月一日發行  
第二十四卷第一號

無 斷  
轉 載

編輯者 倉 橋 惣 三  
發行者 越 元 新 吉  
印刷者 東京市京橋區木挽二ノ十三 石 上 文 七 郎  
印刷所 東京市京橋區木挽二ノ十三 教文書院印刷部

發行所 東京上野寛永寺坂下(上根岸八十八)

電話下谷三〇四七番・一九五一番  
振替東京四六一一一番

第二十四卷第一號（每月一回一日發行）

大正十三年三月廿八日印刷  
大正十三年四月一日發行

定價金三十五錢

院書文教